

# 令和6年能登半島地震 被災地における活動の報告



6月11日 輪島市



4月11日 能登町役場

園部まり子<sup>1)</sup> 坂口智恵<sup>1)</sup> 服部佳苗<sup>2)</sup> 田野成美<sup>3)</sup> 長岡徹<sup>1)</sup>

NPO法人アレルギーを考える母の会<sup>1)</sup> NPO法人ピアサポート F.A.cafe<sup>2)</sup> 大阪狭山食物アレルギー・アトピーサークル「Smile・Smile」<sup>3)</sup>

第61回日本小児アレルギー学会学術大会 令和6年11月2日(土)

# 日本小児アレルギー学会

COI 開示

筆頭発表者名 園部まり子

演題発表に関連し、開示すべきCOI 関係にある  
企業などはありません。

# アレルギー疾患対策の推進に関する 基本的な指針

(厚生労働省 平成29年3月、令和3年3月改正)

## 第五 その他アレルギー疾患対策の推進に関する重要 事項

### (3) 災害時の対応

イ 国は、平時から、避難所における食物アレルギー疾患を有する者への適切な対応に資する取組を地方公共団体と連携して行うとともに、災害時には、乳アレルギーに対応したミルク等の確実な集積と適切な分配に資するため、それらの確保及び輸送を行う。

また、地方公共団体は、食物アレルギーに対応した食品等を適切なタイミングで必要な者へ届けられるよう、防災担当部署等の被災者支援に関わる部署とアレルギー疾患対策に関わる部署等が連携し、可能な場合には関係団体や専門的な知識を有する関係職種の協力を得て、避難所における食物アレルギーを有する者のニーズの把握やアセスメントの実施、国及び関係団体からの食料支援も活用した食物アレルギーに配慮した食品の確保等に努める。

# 避難所における良好な生活環境の確保に 向けた取組指針

(内閣府防災担当 平成25年8月、同28年4月改定)

## 第1 - 4 避難所における備蓄等

### (1) 食料・飲料水の備蓄

食物アレルギーの避難者にも配慮し、アルファーマイ等の白米と牛乳アレルギー対応ミルク等を備蓄する。必要な方に確実に届けられるよう、要配慮者の利用にも配慮する

## 第2 - 7 食物アレルギーの防止等の食料や食事に関する配慮

### (1) 食事の原材料表示

食物アレルギーの避難者が食料や食事を安心して食べることができるよう、避難所で提供する食事の原材料表示を示した包装や食材料を示した献立表を掲示し、避難者が確認できるようにする

(2) 避難者自身によるアレルギーを起こす原因食品の情報提供  
食物アレルギーの避難者の誤食事故の防止に向けた工夫として(中略)  
食物アレルギーの対象食料が示されたビブス、アレルギーサインプレート等を活用する

## 第2 - 8 衛生・巡回診療・保健

### (7) ② 生命・身体に配慮を要する避難者への対応

アトピー性皮膚炎の悪化を避けるための仮設風呂・シャワーを優先的な使用させることや、喘息など呼吸器疾患の悪化を避けるためのほこりの少ない場所への避難などの配慮がなされることが望ましい

# 能登半島地震、被災した3市3町を中心に活動

## 主な活動地域



(地域の人口) 令和6年6月現在

輪島市	21,572人	珠洲市	10,923人
能登町	14,456人	穴水町	6,971人
志賀町	17,829人	七尾市	47,041人

## 1月15日に初訪問、13日間活動

### 石川県保健医療調整本部に問い合わせ (1月13日)

「発災から2週間たつが、今回の災害は超急性期が長く、今も続いている。アレルギーが大変になってくるのはこれからだと思う。支援に入っていただくのは大変にありがたい」  
(沖縄県立中部病院の高山義浩医師)

- 1月15日 = 七尾市、富山県庁
- 3月14日、15日 = 穴水町、能登町、珠洲市、志賀町、輪島市
- 3月26日～28日 = 中能登町、七尾市、志賀町、穴水町、能登町、珠洲市、輪島市、石川県庁
- 4月11日～13日 = 七尾市、穴水町、能登町、珠洲市、輪島市、志賀町、羽咋市
- 6月10日～12日 = 七尾市、穴水町、能登町、珠洲市、輪島市、志賀町
- △6月27日(木) = 石川県庁で打ち合わせ
- △5月21日(火) = 防衛省統合幕僚監部参事官付企画官、内閣府政策統括官(防災担当)付参事官補佐と面会し要望

## 活動の内容

- 市町の被災者支援担当などと連携、患者の実情を伝えサポートを要請
- 患者サポートに必要な情報や資材を提供(自衛隊を含む)
- 訪問した避難所で患者サポート体制づくりに協力
- 直接連携できる患者をサポート

## 活用した主な情報・資材

- ・厚労省・学会のサイト「アレルギーポータル」
- ・災害時のこどものアレルギー疾患対応パンフレット(日本小児アレルギー学会)
- ・アレルギー疾患のこどものための「災害の備え」パンフレット(日本小児臨床アレルギー学会)
- ・知っておきたい乳幼児のスキンケア(横浜市)
- ・乳幼児スキンケア:動画付き(ERCA)
- ・母子保健事業で取り組むアレルギー疾患の発症予防・重症化予防(アレルギーを考える母の会)
- ・赤ちゃんのアレルギー疾患が気になりな方へ(同)
- ・食物アレルギーであることを周囲に知らせるピブス(ピアサポート F.A.cafe)
- ・他に環境再生保全機構発行の資料

# 被災地での活動の様子

七尾市健康推進課（1月15日）



七尾市内の避難所の様子（1月15日）



輪島市内で（4月12日）



珠洲市役所で（3月14日）



# 被災した3市3町の「避難所指針」に基づく取り組み

活動の中で見えた状況や、アンケート結果（7月実施）から

\* 数字は自治体数

## 【災害への備え】

・アレルギー対応食を備蓄していた	3
・アレルギー対応ミルクを備蓄していた	1
・特に準備していなかった	3

## 【発災時の対応】

・アレルギー対応食を提供・配布した	4
・アレルギー対応ミルクを提供・配布した	2
・食事などの原材料情報を見やすく掲示した	2
・ADや湿疹のある人のシャワー等の優先使用	1
・ぜん息患者に埃の少ない場所への避難を配慮	1
・特に要望はなかった	2

## 【住民からの相談や要望】

・食物アレルギーについて	3
・湿疹やADについて	3
・特に相談や要望はなかった	2

- すべての市町の避難所などでアレルギーのアセスメントが行われていた。一方で在宅避難の場合、本人からの申し出がなければニーズ把握ができなかった
- 「アレルギーの子どもが食べられるものがなかった（支援物資が届くまで）。アレルギー対応食の備蓄は必要だと思った」
- 「備蓄食料は全て28品目不使用としていた。しかし、アレルギー患者を把握する方法や対応の基本に対策がなされていなかったため、避難所ごとの対応にバラつきが出てしまった」
- 「周知用のチラシも県のマニュアルのものを利用した。しかし、内容の把握や、誰がどのように対応するかなど、細かな打ち合わせができず、対応できないことが多かった」
- 「避難所にいるアレルギー患者や連絡をくれた患者には対応食を提供した。ただ未就園児や高校生、成人で在宅避難の場合、本人からの申し出がなければニーズ把握ができなかった」
- 「遠慮せずアレルギーがあると発信してほしい」
- 「アレルギーは見た目では分からず困り感に気づきにくいいため、遠慮なく要望を申し出ただけるとありがたい」
- 保健センターでは、長期間の断水が続き、皮膚トラブルに悩まされる子が増えると心配していた。「長期間の断水で入浴やシャワーなどが使えず、湿疹がでた乳児がいた」

# 平時から、自治体①と患者ニーズ②をつなぐ取り組みが必要

(災害のフェーズと取り組みイメージ)

**災害は違っても  
課題は共通**



平成23年6月30日 宮城県気仙沼市

超急性期

(発災から72時間)

急性期

(発災72時間から1週間)

亜急性期

(発災1週間から1カ月)

慢性期

(発災1カ月から3カ月)

## ①事前、避難所等での積極的な広報と提供

被災者ニーズの把握 (アセスメント)  
保健部門と防災部門の平時からの連携  
相談窓口、配布場所の平時からの明確化

公助

### 自治体の備蓄

- アルファ化米  
= ○○○○○ 人 ×  
○○% × ○食分
- アレルギー用ミルク  
= 1避難所に ○○缶

## 地域外からの支援の到着

いつ頃から届くかは予見できない、東日本大震災では10日かかった地域も

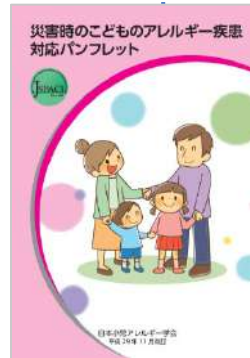
自助

## ②遠慮せず「困っています」と声を上げよう

(避難所でも、在宅避難でも)

## 平時から少なくとも2週間分を備蓄することを推奨

(農林水産省 要配慮者のための災害時に備えた食品ストックガイド)



## 公的な情報を活用しよう

お薬  
おくすり  
手帳

## ローリングストック

普段から少し多めに食材、加工品を買っておき、使ったら使った分だけ新しく買い足していく

(厚生労働省・アレルギー学会)

アレルギーポータル

アレルギーについて、正しい知識を身につけて健康の改善、管理、予防をしましょう。



(東京都)

東京都保健医療局  
Bureau of Public Health

東京都アレルギー情報navi.  
Tokyo Allergy Portal Site

## (当会が活動してきた被災地)

- ・東日本大震災 (平成23年)
- ・関東・東北豪雨 (平成27年)
- ・熊本地震 (平成28年)
- ・平成28年台風10号豪雨災害 (岩手県岩泉町)
- ・九州北部豪雨 (平成29年7月)
- ・西日本豪雨 (平成30年7月)
- ・北海道胆振東部地震 (平成30年9月)
- ・令和元年東日本台風
- ・令和2年7月豪雨 (熊本)
- ・熱海土石流災害 (令和3年)
- ・令和6年能登半島地震

## 令和6年能登半島地震

# 被災自治体で、アレルギーの災害対応はこれまでになく着実に取り組まれていた

【大変な状況の中、調査に協力していただいた被災自治体の皆様に深謝いたします】

### 【地域で患者ニーズと自治体等の支援をつなぐ取り組みを】

**（都道府県）** 都道府県アレルギー疾患対策協議会等での議論を通じた市町村への提案・取り組み推進

**（市区町村）** 市区町村の備え充実と、備蓄や災害時の相談窓口などの情報について、平時からの積極的な広報

**（医療機関、患者）** 保育所・学校などの施設、健診や医療機関受診の機会を利用した、地元自治体の備えと災害時の相談窓口などの情報提供、自助の促進。被災時した時には遠慮なく「困っていますと声を上げよう」と周知

### 能登地域での今後の活動

（能登町と連携）

○11月21日（木）

能登町健康福祉課と連携して10組程度の母子が参加する「アレルギー講座」を開催。講師は古川真弓先生（さいわいこどもクリニック、前都立小児総合医療センターアレルギー科）

（石川県と連携）

○11月22日（金）

被災地域からもハイブリッドで参加可能  
午前：研修会「アレルギー疾患の災害時対応と保健指導」、講師：古川真弓先生（さいわいこどもクリニック）

午後：研修会「食物アレルギーの最新知識と緊急時対応」、講師：今井孝成先生（昭和大学医学部小児科学講座教授）

会場：石川県地場産業振興センター新館  
コンベンションホール（金沢市）